

THE LONGINES WORLD'S BEST RACEHORSE RANKINGS

The official listing of the world's best racehorses

(For 3yos and upwards which raced between 1st January and 10th August 2014)

3月にドバイデューティフリー(G1)を制したジャスタウェイ【130】が今回発表の最新版ランキングでもトップに立ち、5ヶ月連続で首位の座を維持している。

しかしながら成長著しい3歳馬2頭が差を詰めてきている。その中でも上位に初めてランクインしたタグルーダ【124】は現時点で牝馬トップタイとなっている。

LONGINES World's Best Racehorse Rankings			
Leading Horses			
Rank	Horse	Rating	Trained
1	JUST A WAY (JPN)	130	JPN
2	KINGMAN (GB)	126	GB
2	VARIETY CLUB (SAF)	126	UAE
4	GAME ON DUDE (USA)	125	USA
4	SEA THE MOON (GER)	125	GER
6	CALIFORNIA CHROME (USA)	124	USA
6	GOLD SHIP (JPN)	124	JPN
6	TAGHROODA (GB)	124	GB
6	THE FUGUE (GB)	124	GB

無敗の3歳牝馬タグルーダは7月のキングジョージ6世&クイーンエリザベスS(G1)において圧巻のパフォーマンスを見せた。同馬は2着のテレスコープ【123】に3馬身差をつけ、その他にもムカDRAM【122】やイーグルトップ【120】を降している。

上位馬はいずれも前哨戦を完勝していた。G1競走において一線級の牝馬を降すというのは並大抵の牝馬に出来ることではない。今後陣営がどういったプランを立てるのか興味が尽きない。とりあえず同馬は牝馬限定のヨークシャーオークス(G1)に出走予定である。

キングマン【126】は7月末のサセックスS(G1)を制し、通算7戦6勝となった。

この競走においては、ロイヤルアスコット開催のセントジェームズパレスS(G1)と同等のパフォーマンスを見せるまでもなく制している。ジャックルマロワ賞(G1)で同馬は更なる試練に立ち向かうことになりそうだ。

前回の 5 位タイから今回 4 位タイに順位を上げたのが 6 月に独ダービー(G1)を圧勝したシーザムーン **【125】** である。シーザスターズ産駒で未だ無敗の同馬は前回の発表では 124 ポンドの評価であったが、独ダービー2 着馬ラッキーライオンがその後バイエルンツフトレネン(G1)を制したことから、レーティングを上方修正したものである。

今月新たにランキングに加わったのはハスケル招待 S(G1)で 7 馬身差の圧勝劇を演じたバイエルン **【121】** である。同馬は重賞競走において 2 走連続で 7 馬身以上の完勝劇を演じている。